京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

人物管見（四）

片々生

▲第一次の桂内閣は總て山縣系を以て組織せられた、其顔觸は餘りドツトとした人物はなかつた、此内閣の大立物たる清浦は司法大臣となり、山縣の秘書役と目せられたる平田は農商務大臣となり、曾禰は前に述べたる如く大藏大臣の職位を占め外務を兼攝した、如何なる都合か内務の要職には内海忠勝と云ふ老人を持込だ、世人は此等の顔觸を見て到底此内閣は長持はあるまいと云ひ囃した、而して桂と巳代治との間は漸次何となく面白からざる様になる、是は桂が巳代次を軍師として要する間は所謂教の教を乞ふたが、其教の餘り面白からぬことを知り巳代次の眞價も略々分つて來たので、所謂敬遠主義と出掛けた爲であらう。併し閣員中にも巳代次の容喙を喜ばぬもののあつた爲でもあらう、清浦や曾禰は巳代次排斥の急先鋒也とは其頃世間に傳つた説である。

▲超然内閣政黨一視同仁 の説は桂の口より唱へ出された、而して實際議會に對すると一視同仁では通されなくなつた爲に、隨分非立憲的の行動を始めたのである、爲に世人の豫想したる如く此内閣の運命も迫り、國民の不信任は極度に達したと云つても可なりであつた、其中に平田は或る蹉跌の爲に辭任し清浦が農相を兼任した、内相内海は大病で出仕せず、夫れや是やで桂も内閣明渡しの決心をしたのである、其とき其の明渡しに反對したのは曾禰と清浦と小村であつたと云ふ事である、此三人の者は所謂壇の浦迄漕ぎ付ける乘出した船を半途で引返す杯は意氣地のない事だと主張したと云ふ事である、桂も終に勵まされて壇の浦と覺悟したのである、併し實際は桂が閣員の決心を試みたのだと云ふ人もある、何れにしても此内閣は此三人者によりて持續されたと云ふてもよろしい、所へ彼の空前の大役露國との開戰となりし爲に桂の第一次内閣は思はざる長持したのである。

▲以上の經歷に徹するも 清浦や曾禰や小村の人物が略ぼ想察されるではないか、而して當時曾禰と清浦との働き振りはドウであつたか、清浦は元來司法出身なれども才人だけに司法にのみ立籠つて居ることを潔しとしない、機會だにあらば他に突進して名利共に得よふとの考へが勃々として居つたのである、所へ農商務兼任と云ふことになつたので此方面に向て頗る手腕を揮たのである、本職よりも兼任の方に於て其手腕を發揮した、從て實業家に接近するようになり財政の所管にまで切込まんとする勢を示すに至つたのである、一方に於ては貴族院の操縦より衆議院に於ける黨人の操縦をなし、所謂八面六臂其活動振りは異に勇ましいものであつた、此間に於ける曾禰の活動振りはドウであつたか、不相變悠然として清浦等の活動を冷眼に看過したのである

文苑

●意志薄弱　　堅郎

ソウなつたら人は自分の事を兎や斯ういふだらうが併し自分は自分の信ずる所に向つて進んで行く積りである、俯仰天地に耻ぢずとはいひながら目的を達する爲めには手段は何うでも可い、縱し手段にして不正であつた所で目的を達した曉に不正の罪業を埋め合せしたならばソレで結構だらうと思ふ……とは平常自分が思ふ所であるが何うしても自分にはソレが出來ない、詰る處意志が薄弱なのであらう年既に不惑碌々として未だ一家を爲さゞるも之が爲めである、吁々……意思の薄弱……

●黄粱の夢　　赤坊

「郡門に人なく三度び草廬に其の人を訪ふかね……コラオイ一杯飲まないか、斯ういふぢやないか咽涙先生は天下の文士だ、潰しにしても來いぞ、駿馬は死したからといつて金になるのだ、白骨を千金に買ふ人さへある、ナニ今來たのは誰かつて、呑氣だなア、那れがツマリ白樂よ、イヤサ新聞社の社長は我輩を主筆に雇ひに來のだ、旅費支度料として百圓……此れ見い小切手でよ 時に家賃はイクラ溜つて居るかな、五十圓よろしい、御苦勞だがナ、今から此の小切手を持つて行つて差配の爺の禿頭へ貼つてやれ……」といふやうな夢を見たのですよ八重子さん

佐倉宗吾（百廿九）

眞龍齋貞水講演

そこで中島宗四郎は、家來も女中も居なくなりましたから、據ろなく親族の者を喚びまして、それと話は出來ないから、實は酒興の上とは云ひながら、些と手違を生じてと云ふけれども、世間の人は文太夫、勝助等の申した事に、尾に尾を附けて話したから『ソレツ、中島宗四郎の家に祟がある』と皆な戰慄い上りました、親類の者も、それを聞いて居るから、晝は宗四郎の處へ手傳に參りましたが、夜になると皆な歸つて仕舞うやうな譯、そこで漸うの事に、御新造と御子供の死骸を纏め、之を葬りまして、家財を殘らず賣拂つて中島宗四郎、殿様へ對して長の暇を願ひ、願書を認めて殿様へ差上げました、其趣は、希か御領分百姓を御苦しめなく、御仁政を御布き下さるやうにと云ふ文意、併し願書は殿様へ差上げたと云ふやうなもの、飛出したまゝに、信州善光寺へ參りまして、そこで御住持に御目通りを願ひ「堀田上野介家來、中島宗四郎と云ふ者でござるが、實は領分印旛郡岩橋村の木内宗五郎と云ふ名主が、斯様々々云々」と申し上げると、兼て此事は、日本全國に知れ亘つて居りますから、善光寺の御住持も能く御存知あるものと見ねて 住『汝改心したのは、誠に好き時節である、もそつと遲くんば、汝も矢張り宗五郎のために生命を奪はるゝのであつた、一人出家を遂ぐる時は、九族天に浮かばれると申す、是から一心に讀經を致し、其怨靈の鎮まるやうに勤を致したならば、宗五郎は喜んで地下に瞑目することゝ必定なり、それは宜き心掛である」と説かれましたから、宗四郎は並に涙を流して出家剃髪を致し善光寺にあつて始終阿彌陀様に向ひ、念佛を唱へ、宗五郎親子の戒名を朝夕唱へて居りました然る所後に至りまして宗五郎の社が出來まして、宗吾靈神と堀田家に於て祭りました時に、宗四郎は善光寺から歸つて來て、堀田家へ願を上げて、此社を守護いたし、七拾餘歳まで宗吾の冥福を祈つて相果てましたから是は正しく末は宜しうございました、畢竟早く改心を致したからでございます、宗五郎の怨みは他の怨みと異ひまして改心をして領分の者が穏かになれば、それで宜いから、宗四郎は此の如く終を全うしました、堀田河内守は、前申し上げた通り玄蕃の悴でございましたが、中島宗四郎の家へ、宗五郎夫婦の亥が現はれたと云ふことを聞くと慄然としまして、サアそれからは何となく怖けて仕舞ひまして、併し斯う云ふ事は、妻子に話し度ないから默つて居ると、又何人が喋舌るか、爾う云ふ事を云ふた者がございますから、もう戰慄い上つて、夜分になりますと、堂々たる國家老の身を以て、厠へさへも一人で行けないと云ふ有様、と云つて妻を起して厠へ一緒に行つてくれと云ふも可笑なもの、御重家來を起す譯に行かず、困つて居りますと、一日河内守の仲間の團助と云ふ奴が、御使ひに出まして、佐倉の御城下から御城中へ入らうとすると○『オイ團助ッ』と呼ぶ者がある 團『何人だね』○『少し待ちな』團『イヨー、何人だと思つたら三藏かね』三『ム、何處へ行つたんだ』團『今御城下まで御使ひに行つたんだ』三『マア成るたけナ、大抵晝間御使ひをして置きな』團『エッ』三『晝間の内御使ひをして置けよ』團『なせ三どん、其様な事を云ふんだ』三『なやつて夜うつかり御使ひに出た日にやナ、エテ物が密と出ら』團『何でね』其エテ物が密と出るつてなア』三『分らねゑ野郎ぢやねゑかなア大きな聲で云へねゑけれど、中島宗四郎さんの御宅で如何だね中島宗四郎様が御新造を斷つて仕舞つたナ、何人の所業だつて云ふと、宗五郎様の所業だ、アゝやつて炎の臺で御處刑になる時は惡い役人をウンと怨んで御死になすつたぜ、云ふことを聞いた、何れ前さん所の旦那さんは、惡い役人でなからうけれども、何しろ御城代堀田玄蕃様の御子息、あゝして様を襲いで居るんだ』團『然うよ』三『元の起りは何うだと云ふと、俺ッ達は能く分らねゑが、玄蕃様から起つて、宗五郎様があの通り御處刑になつて、可哀さうに子供衆まで生命を捨てるやうに成つた、幾ら人のため生命を捨てると云つたつて、氣の毒だとか口惜しいだとか思つた事は、遺つて居るものだ、坊主が憎くけりや袈裟までもでれ前が夜御使ひにでも出た時に、團助エ……』團『止しな此野郎、氣味の悪い事を云ひやがつて、詰らねゑ事を云ふな」

京城新報

統監と第一銀行

君子の爭ひ

第一銀行韓國總支店新築の定礎式は本日を以て擧行せられんとす、曩日荒井度支部次官と澁澤男爵との間に調印せられたる覺書に依れば本建築物は此定礎式を終ると同時に將さに新設せられんとする韓國中央銀行に引繼がるゝもの也、余輩は此機會に於て伊藤前統監と澁澤男爵との爭に對する私見を述べ以て世人の一顧を請はんとす。

余輩の知る所を以てすれば伊藤公が韓國中央銀行設立の念願を起し之に就き第一銀行より紙幣發行の特權を取上げんと思ひ起されたるは實に三年以前の事なりとす、然れども第一銀行が紙幣發行の特權を有することは素より合法的にして、且つ同行の態度營業振り等も大体に於て誤らざりしが爲に伊藤公が心中如何に思ふとも之に對して如何ともすべからず、終に三年間一指だも之に加ふる能はざりき。

元來第一銀行が紙幣發行の特權を得るに至りしは、一は日本政府の慫慂により一は韓國政府の依賴に據りたるもの也、茲兩三年に於てこそ多少の利益を見るに至りしも、其始に於ては利益を得ざるのみならず時に引換取附の迫害を受け、同銀行の基礎も殆ど危からんとするに至りたる事實あり、其後漸次同銀行券が日韓人間に通用するに至りしは全く在留邦人の盡力と第一銀行其者の經營宜しきを得たる爲ならずんばあらず斯くして過去八年間盤根錯節を經て韓國貿易の爲め將た金融財政の爲め特に幣制改革の大業の爲に盡したる所のものは最も顯著なることなりとす。然れども韓國政府側に於ては嘗に伊藤公が心中窃かに中央銀行設立を目論見居りたるのみならず、時勢の必要上相當の理由を以て第一銀行より紙幣發行權取上げを主張するものあるに至れり、此等の人々の中にて稍々穩和なるものは之を絶對に取上ることの非道理なるを說き寧ろ發行税を課するの可なるを主張するものもありき、然るに新に現はれたるものは當時の曾禰副統監の中央銀行必要論にて頗る有力なりき、三年前より伊藤公が懸案として置かれたる此問題も終に公の辭職前に於て斷行するに至りし也、伊藤公と澁澤男との交渉は三年以前よりありしも、實際に交渉を開始したるは本年一月也、統監としては現にも角にも中央銀行設立を以て韓國財政の機關を備るものと信じ澁澤男としては永遠に享有する紙幣發行の特權を放棄することは何れより見るも一大困難の事件なりとす、要するに此困難なる事件の解決に就ては一方に於ては國家の大權を隨時に行使する能はざるものにては到底之を言ひ出し得ず、又一者に於ても公利公益を重ずる澁澤男に非ざれば株主及其關係者を首肯せしむる能はず、如何に伊藤公なりと雖も第一銀行が數多の困難を經て漸く今日に至れる[illegible]なりとして騷きたる[illegible]澁澤男は由來論語を以て[illegible]公利公益の爲に伊藤公の裏議に對して其[illegible]れども其交渉は一[illegible]難の事件なるを以て之を解決するには[illegible]座となりたるなり、然[illegible]其狀恰も双龍玉を[illegible]り烈しき爭ひあり、[illegible]が如き壯絶の觀あり唯賞すべきは其爭[illegible]に秘密を守り外間[illegible]一言も挾ませざりき其結果として伊藤[illegible]統監辭任間際に於て現に角中央銀行の[illegible]置を確定せり、而して第一銀行に取りて[illegible]名義に於ては何と名くるも一ヶ年三十[illegible]圓宛の恩給を今後廿年に亘りて取上る[illegible]なれり是れ乃ち兩者共に大に成功し[illegible]のと云はざる可らず、斯の如く成功[illegible]めたるものは統監側に於ては荒井度支[illegible]官にして第一銀行側にありては佐々木[illegible]の兩氏也、普通の人情よりすれば統監[illegible]なるに、更に此事な[illegible]惡戰の演せらるべきのみならず、第[illegible]行に於ては其新築舍の定礎式を擧げ[illegible]中央銀行に名實共に礎を据へて圓滿[illegible]國政府に引繼くに至りしは、全く春畝[illegible]南先生寡慾淸廉の致す所にして、其爭[illegible]終始君子の爭ひなりしが爲なりと深く[illegible]るものなり。

倫敦電報

▲露兵の進軍　波斯に派遣されたる露國軍隊はテヘランの北方百哩の地點に達せり（十日午後東京經由）

▲獨逸の財政案　獨逸議會にて政府の財政案は妥協成立せり（十日午後東京經由）

桑港電報

▲勞働者の激昂　布哇同盟罷工は上野總領事の勸誘にて復業したるも給料支拂日に至り增給せずとて移民等激昂激騰の模樣あり（十日午後東京經由）

東京電報

▲日糖重役有罪　日糖會社重役の豫審は本日決定したり前社長酒匂常明、磯村良介、秋山一裕を始め高津、伊藤、福川、恒川等は有罪、罪名は私印盜用、私書僞造行使、詐僞取財、賄賂贈與等なり

▲立川雲平有罪　屠場法收賄事件にて代議士立川雲平有罪と決定す

▲水力電氣本社　日英水力電氣會社は本社を加奈陀に置く事に決定したり

▲藤富子の當選　本日子爵議員選擧會に於て尙友會の藤富惟寬氏當選したり

▲對淸外交不振　對淸外交益々振はず鰲が關には小村外務大臣福島參謀次長等密議を凝し居り何んとなく色めき居れり（以上十日後發）

雜報

●梨本宮御立寄　歷々電報を以て報道したる如く目下歐洲よりの御歸途に在る梨本宮同妃兩殿下には來る二十七八日頃京城に御到着韓皇に御對顏の上曾禰統監の御招待會にも御臨席各所御遊覽の上三十日若くは三十一日京城御出發馬關京都を經て御歸京の御豫定なりと

●韓國現勢奏上　我天皇陛下が海外にある邦人の狀態に就いて夙に大御心を惱ませ玉ふ事は豫々漏れ承はるところなるが今回伊藤公の渡韓に際し韓國最近の狀勢を調査奏上すべしとの御諚ありし由にて伊藤公は渡韓後各部大臣に對し最近の國勢一班を調査せしめ又日本人側は上京中の各理事官に向つて邦人の現況調査を命ぜられたる由なるが右は伊藤公退京迄に調査を終り歸朝後親しく復奏する筈なりと云ふ

●臨幸と伊公答禮　韓皇には既報の如く閔宮相、李首相、尹侍從院卿を從へ十日午前十時半昌德宮敦化門統監邸に伊藤大師を訪問し暫らく對談の後十一時半還宮されたるが伊藤大師には午後一時統監邸を出で古谷國分秘書官等を隨へ昌德宮に參內し訪問の御禮を申上げ直ちに退出したり

●定例內閣會議開會　八日午前九時より各大臣內閣に參集し定例內閣會議を開きたり

●漢城府民と頌辭　漢城府民會長兪吉濬氏は伊藤公に呈する頌辭を錦の衣地に刺繡し近日贈呈する由

●韓皇の贈與品　韓皇には統監邸臨幸の際伊藤公に純金製花瓶一對を贈與相成りたるが目方は一個一貫五百目にて此價格四萬五千圓なりと

●旅行規則と訓令　學部に於て今回實業學校令及其施行規則を發したるに付之れが頒布の趣旨及施行上の注意に關し地方官へ夫々訓令を發したり

●海陸將校の謁見　須永旅團長以下各將校千歲練習艦長以下海軍幕僚滿州丸同上及び目下入京中の各理事官は十二日曾禰統監に帶同せられ韓皇に謁見の筈なりと云ふ

●昌德宮動物園公開　昌德宮內に在る宮內府動物園は之を公開し一週一回乃至二回日を限りて公衆の觀覽を許す由なるが大韓醫院に面したる側の門を開く筈目下準備中にて來る九月中旬迄には全く開場の運びに至るべしと

●一銀支店長會議　既報の如く第一銀行支店長會議は十日午前九時より開會したるが市原總支配人、木村支配人其他各課長列席の上中央銀行に對し事務引繼に關する方法に就き打合せりと

●土木出張所長會議　光州、鎭南浦、平壤、水原、公州、大邱、馬山、木浦、羅州の內部各土木出張所主任は中原土木囑托の來京を機とし事務打合及道路工事經過報告の爲め十五日內部にて協議會を開く由なり

●參奉俸給支出決定　歷代祀祠陵の事務を掌る參奉の俸給の支出方に就きては一定の規定なきを以て種々不都合を見たるが今般國庫より支出することに決定したりと

●統監邸園遊會　既報の如く伊藤公の留別及び曾禰子就任披露の大園遊會は昨十日午後五時より統監邸後丘に於て開催せられたり催主側は伊藤公曾禰子を始めとし石塚長官代理鍋島外務部長參與官以下統監府の重もなる高等官等にして來賓側は各國領事民團有志者及び韓國皇族各部大臣侍從院卿等なるが軈て開會の時刻來るや模擬店は開始され續いて食堂は開かれたるが主客獻酬を重ねて興將に盛ならんとするの時伊藤公は起つて一場の演說をなし續ひて曾禰統監の演說ありしも其の後の光景は本稿締切迄には知るを得ざりき尙當日餘興としての造物は富士の景（會計課）雷神（人事課）動物園（文書課）美の神（赤十字及愛國婦人會）無線電信（監查部）船の山登り（地方部）水車（巡視）雪の曙赤穗義士（小使）噴水（營繕掛）東亞の天地日本時、木鉢なる時計（以上秘書課）等なり

●伊藤公の演說

東拓重役招待會の席上にて

別項記載の東拓重役招待會に於ける伊藤公の演說の要旨を摘記すれば左の如し

拓殖會社創立の際には自分は統監の職にあり國狀に照し韓人の心を代表して我政府に意見を呈したるため新聞等には同會社設立の反對意見者なりと唱導する者あるに至れり當時自分は拓殖會社成立の後は其業務を圓滿に實行し得るものと爲さゞるへからず若し日本の方にのみ都合好き樣に組織し徒に韓人の反對を招くか如きことあらは同會社の重役諸君をして成功を誤るに至らしむるの虞を抱き憚らす愚見を呈したるに當時の政府當局は幸に卑見を容れられ終に本會社の成立を見るに至れり而して適は唯日韓兩國の事情に適合する樣設立せられは假令成立はするとも其業務は終に不成功に陷り兩國の爲めに不幸を釀すを虞れたるなり幸に當局の容るゝ所となり今日は既に本會社成立を見たるも日韓兩國民より著しき異存の聲も承らざるが故に將來も圓滿に經過して成功を期し得べしと信す作併事は往々にして蹉跌し易きものにて人間の行爲は凡て然らざるなし種々なる事故に遭遇し經過は所期と轍を同ふせざることあり希くは重役諸君は克く愼密に兩國民の利益を圖りて以て成功せられんことを飽く迄自分の祈る所なり

●韓國昨年度屠牛數　韓國昨年度の屠牛數は全道を通じて七萬〇七十一頭內京畿道九千〇七十九頭漢城府一萬八千〇八十一頭忠淸道一万一千九百三十八頭慶尙道二千二百七十九頭全羅道六千三百三十五頭黃海道四千八百六十五頭平安道一萬二千二百七十二頭咸鏡道五千四百十八頭江原道千六百九十八頭なりと云ふ

●韓人の學會組織　李道宰、李容植、金允植、李裕元の數氏は政治上の意味を有する一種の學會を組織せんとし目下計議中なりといふ

●本山社長の招待宴　既報の通り滯京中の大阪每日社長本山彥一氏は九日午後七時より在京城新聞記者二十餘名を花月樓に招待し宴を張りたるが席上本山社長は一場の挨拶を爲し且曰く予が今回の滿韓及び西比利亞旅行は何等特別の用務あるに非ず單に夏期の小閑を利用して漫遊する次第なりと述べ大岡氏一同を代表して答辭を述べ主客歡を盡し午後十時散會す

●東拓新舊統監送迎會　既報の如く東拓の新舊統監送迎會は九日午後六時より掬翠樓にて開會したるが來會者は新舊統監大久保軍司令官、西島師團長、各旅團長、各參與官、憲兵司令官、各部大臣、各理事官等にして總裁の挨拶に次で伊藤公の演說あり十時過散會したりと

●外人怠納處分　韓國にある日本人以外の外國人は今回三稅の賦課に服從することとなりたるに就ては怠納者ありたる場合に當り之が處分の方法は日本人の舊稅怠納處分の時代と同じく單に通告のみに止め置く筈なりと云ふ

●トロール漁業反對　鎭南浦水產組合支部にてはトロール漁業を黃海、平安の兩道に許可する件に付て具体的に反對の意見を發表したり

●法律講習所設置　一進會にては韓人の法律思想を增進する爲め法律學校を設立すべき計畫中なる處別項記載の評議員會に於て法律講習所を設立することに決定したりと

●上半期の群山貿易　本年上半期の群山貿易總額は百三十九萬二千七百十二圓にして昨年上半季の百十三萬二千二百九十六圓に比すれば二十六萬四百十六圓の增加也と

●送迎園遊會順序

十二日和城臺に於て開催すべき民團の新舊統監送迎園遊會の順序左の如し

（一）午后五時卅分模擬店開店（二）午後六時食堂開卓此時爆竹あり（三）會員着席（四）來賓臨席（五）發起人總代送迎の辭（六）餘興として藝妓手踊及煙火あり七時卅分隨意退散

●一進會評議員會　九日一進會本部に於て評議員會を開き法律講習所設立の件各部政務調查委員廢止の件を可決したり

●募集巡查の着任　過般寺島安田の兩內部警務局警部が內地に於て募集したる巡查八十八名は兩警部引率の下に十三日着任すべしと

●道書記官々舍新築　昨年淸州、鏡城、春川、光州の四ヶ所に道書記官々舍を新築したる事は既報の如くなるが今年は更に四ヶ所の官舍を新築するに內定し目下撰定中也

●理事廳巡查の昇級　各理事廳巡查の昇級は目下統監府に於て調查中なれば不日發表さるべし

●各道巡查の昇級　地方各道巡查にして平素勤務勉勵且つ昇級後一ヶ年を經過したる者三百一名及各道に於ける他の巡查の模範たるべき功蹟あり此際拔擢の必要ある者五十四名は六月三十日附を以て何れも昇級されたりと云ふ

●國民新報社長辭意　國民新報社長韓錫振氏は或る事情の爲め辭任を申出たりと傳ふ

●內部の郡主事招待　內部にては第三回郡主事十四名を九日夜巴城館に招待し余興として活動寫眞等ありたり

●韓國要覽の編纂　朝鮮雜誌社にては標題の如き書籍を刊行する筈にて目下編纂中

●外國語學校教授　外國語學校教授として前堺中學校教諭長谷丁慶氏十日着任せり

●權藤書記官東上　宮內府書記官權藤四郞助氏は暑中休暇を利用し約一ヶ月の豫定にて東上することゝなり十一日朝出發の由

●中村局長の出張　韓國中央農會大邱支會發會式參列の爲め中村農務局長は十日大邱へ出張せり

●遠藤經理部長歸任　軍司令部經理部長遠藤愼司氏は北韓軍隊經理視察中の處九日歸任せり

●ハリス博士の渡日　滯京中のハリス博士は近々の中日本に赴くべしとの事なり

●六月關釜連絡貨物　六月中に於ける關釜連絡大貨物は輸出五萬二千三百四十二斤輸入二百十一萬九千二百七十六斤同噸扱輸出三百八十二噸輸入七百六十五噸同速達便扱輸出一個輸入二百四十七個なり

●最近の賊狀　最近各地に於ける賊勢は大体に於て著しき消長を認めざるも京畿道及黃海道は目下一部地方にて少數賊徒の出沒を見るの外概して靜穩の狀態にあり江原道北部揚口平康伊川淮陽地方に今尙集團賊徒の徘徊ありて二十名より八十名迄の賊徒と憲兵の衝突すること前後七回に及び未だ衰勢を見ず慶北忠北江原三道の接境地方に於ては前月に比し集團賊徒の徘徊增加したるあり全羅南道及同北道南部地方殊に全南一帶の地方の賊勢最も猖獗を極め時々守備官憲の襲擊を行ひ居れるが韓民の被害は前月に比し增加せる如し而して該地方には目下憲兵を增加し警戒を嚴にしたる以來賊徒は行動上多數集團の不利なるを見て幾多の小集團となり我が餘隙に乘せんとしつゝある狀況なりと

本日の集會

●京城日本基督敎會　旭町四丁目の同敎會にては午前八時より日曜學校同十時より石原牧師の「ジョン、カルビンの性質及思想」午後八時より同牧師の「敬神の道」と題する說敎あり

●メソヂスト敎會　旭町二丁目の同敎會にては午前九時より聖書研究同十時より木原牧師の「信神拜榮光」午後八時よりハリス博士の「クリスト信徒の得る所は何ぞ」と題する說敎あり

●京城基督敎會　日の出町の同敎會にては午前九時より日曜學校同十時より米譯牧師の「眞情の呼聲」午後八時より「心琴の鐘」と題する說敎あり

●佛敎少年敎會　南山本願寺の同會は午前八時半より開會

公人私人

▲橫山直雄（一銀鎭南浦出張所長）九日入京山本へ

▲野口弘毅（同釜山支店長）同日入京浦尾

▲由木玄次郎（德島縣水產組合長）同上

▲村幸八（同縣水產組合長）同上

▲吉氷助一（忠南警察部長）不知火に投宿

▲南保貞次（陸軍步兵少佐）旭館に投宿中の處九日公州へ

▲上林敬次郎（度支部書記官）山本に投宿中の處同日開城へ

近事片々

▲伊藤公銅像建設の議は早くも世に反響して贊成を申込來るもの續々あり喜ぶべし

▲銅像建設は嘗に公の德を頌するのみに非ず此紀念に依て後進の人格を養ふに必要

▲舊新統監同伴德壽宮訪問の際太皇帝には十一眞の韓人新奉の三字を書して示さる

▲伊公は直に甘雨初來喜萬人と絕句し丸に槐南は咸寧殿上露華新を直に承句せりと

▲曾禰統監は扶桑槿域何論態を書し李完用○兩地一家天下春と結句す何れも好詩人

▲漢詩は伊公の得意槐南は素より詩伯西湖子も亦漢詩に於ては優に一家を爲すもの

▲獨逸新聞伊藤の韓國に於ける功績を論じて稱揚す獨きにはタイムスの好評論あり

▲概して伊公の政策は列國に氣受けよし彼處立れば此處が立たぬ借も困つた世の中

▲景福宮送迎園遊會に於ける李完用氏の辭は頗る巧妙なる辭令に富む是韓人の得意

▲伊公に對する惜別の辭の如きは頗る懇歎異敬慕の念禁ずる能はざるが如き趣あり

▲曾禰統監に對する歡迎の辭も亦要領を得て而も飽迄敬意崇心を拂ふ好箇の外交家

▲日韓瓦斯會社は日韓瓦斯電氣會社と改めたりと然らば全く[illegible]を兼營する積りか

▲獨占の弊害を感じ官憲亦如何ともすべからざるに至らむ見よや米國の獨占事業を

▲統監府は宜しく今に於て斷然[illegible]を止むべし弊害の起るに及で狼狽するは不可

▲鶴原君の評判は近頃益々に傳へらる肥料會社長たる說と代議士說とは眞に近きか

▲既に群馬縣より代議士候補に立てりとの電報あり何れにしても今尙は霸氣滿々か

▲淸國の日本に對する外交振りは國交を無視し居ると當局力む併し淸の外交は是れ

▲總てを眞正面に受け跡で慣るは日本外交の拙なる所以マキヤベリズムは淸國外交

▲相手を見て法を設けとは釋氏の善巧方便淸國に對しては淸國に對する方便必要也

▲大阪動物園の獅子に向て喧嘩を挑み仕込械にて獅子を傷けて得々たる弱虎者

●婦人法話會支部　從來南山本願寺にて[illegible]

●天氣豫報（自十一日午後六時至十二日午後六時）

午後二時より發會式を舉行する由

●配達出拂 午後七時四十分

東の風曇後少雨
九日 （華氏） 最高溫度 八三、八 最低溫度 六八、九

▲相談の相談▼
（何んでも御相談に應じ升）

◎廿六女さんより至急來社せられよ

◎問 私は過日子供と妻との折合ひ惡しき爲め御相談を願ひました者ですが至極の御說に就き早速實行に取りかゝらんとせしに愚妻は男の子を手放すに忍びずさて承諾致さず、就ては女子を國元へ送るより他に手段がないのですが如何なものでせう御迷惑でしようも一度れ考へを願ひたい、御多忙中恐入りますが（開城一老父）

◎答 何程醫者が良い藥りを盛つても看護人が此れを病人に飲ませねば病氣は治癒らんです、何んとかして實行して試られよ、妻君の不服があつたからとて娘さんの方を隔離したら益々其の間に墻壁が築かれまして御希望の妻子の和合なるものは期待せられませんよ（係）

◎問 （前略）私のつれあひは今より一年半ほど以前滿しうにかせき口があつて行きましたきり手紙一本もくれませんのでくらしが立たず一年ほど前しよたいをたゝみ今はあるれ宅にほう公いたしてれりますが今日はたよりが有るかあすはもどつてくれるかとくびを長くしてれり升がうんともつふれたとも云つて來ません知り人やそのご主人さまはもウそんな人はあきらめてていしを持て世わしてやると心切に云つて下さるのでいつそ其うしたそかとも思ひ升が其れも不じつのように思はれてなんとも氣が定まりませぬていしは大工で年は三十二、せきはいつてれらん、し事さきは滿しうので道社といつて出ました何うしたものかそうだんし升（殷村）

◎答 何不足なき亭主を持ちながら有るまじき淫奔をなさる婦人の多い世に、然りとはれ見上げ申したれ心掛けと感心するに付けて不心得なる御亭主が憎い、金は送らんでも住所でも分明つて居れば格別跡に殘した妻の安否も心にかけぬ樣な不實な人に何の遠慮が用るものですか、とは他人の私どもの考へですが連れ添ふて居た貴女の身に取れば嫁で添ふた間でなし未練と云ふ譯けでもあるまいが夫れも氣に濟まぬのは無理ではない、と云つて海のものとも川のものとも判らぬものを何日までも待つて居るのは將來の爲めにならぬ、誰れかに賴んで出先きの警察署へ搜索願を兼ねて說諭願を出して見るのも一分別だが、私としては何時迄奉公も出來まいから急ぐことはないから夫れと見極の付いた亭主をれ持ちなさいとれ勸めする（係）

●朝鮮一の燒持男 と題し大邱新聞は下の如き話を揭け居たり大邱居住大竹某と云ふは先頃其女房れ何か他の男と話したりとて女房の頭髮を切り其上衣類があれば外出するからとて與裸に引剝きしが、まだ其れにても燒き足らず此頃亭にて縫いたるキヤル股を作り之を女房に嵌めさせ其一部には小さき錠前を附し便所に行く時は自ら錠を外し終れば直ちに締め置き以て安心せる者の如しとは昔咄にでもありそうな話ならずや

紳士の遊興振
▲市原盛宏君

第一銀行韓國總支店支配人の君は神風連の產地熊本の出身である、熊本には其反動の結果由來頑固黨の多い熊本にも急激開明黨が中々少なくないとも見るべき君も又其一人で早くより洋學を學び種々の學校を了へて米國エール大學に遊學し經濟學博士の學位を得歸朝の后同志舍大學の校長を務め後轉じて日本銀行に入り彼の有名なるストライキに加盟して鶴原君等と共に飛出し其后第一横濱支店長となり次で同地の市長となつて同港築港の計畫を立てた、當地に赴任後は第一銀行の爲めには言ふに不及韓國經濟協會及び銀行集會所を創立し其牛耳を握つて今日迄大に盡す處があつたさて君の半面は前述ぶる通りなるが他の半面なる樓上の人としての君は極めて不得要領で酒を呑むも妓を聘ぶも全く他動的にして仲居の言ふが儘にドチでも向いて居るのである、藝と云つては仕込の惡い爲めか未だ何等の唄くべき者なく只同席の友にして唄へば拍聲を發して附和雷同するを以て任足れりとす或人君に問ふに都々逸と甚句の違いを以てせしに君即座に答へて曰く其差は恰かも紙幣と白銅の如しと其故を問へば同じ僞造するにも紙幣は白銅より手數がかゝると其比喩の巧拙は別として君が遊藝に關する思想は右樣に單純な者であるが今後幾年を經るとも博士になる事は覺束ない樣だ、諺に曰く精神一到何事か成らざらん君にして附和雷同を止め近々中銀の爲め其本城明け渡し濟の上大に閑を得て自主的稽古を積まんにはラツパ節一つ位は必ず覺ゆるの時あらんか由良之助先生以て奈何となす……（投書歡迎）
次は高橋章之助君

●工事中に負傷 南山町一丁目居住日雇稼松田貞次郎（三二）及び氏名不詳韓人二名は一昨九日午後四時頃京城郵便局の造作工事中足代の繩切斷したる爲め地上に墜落し松田は顱頂部に長さ四仙迷骨膜に達する創傷を負ひ一名の韓人は顱頂部に五仙迷骨膜に達する創傷を又他の一名は腰部に擦過傷を負ひ何れも即時漢城病院に收容せしが二週間を經過せば快癒すべしと

●行旅病者の收容 仁川栗木洞居住鹿兒島市入江町山田藤太郎（三九）と云ふは去月十日頃より病魔に冒されたるが獨身者の赤貧洗ふが如き有樣にて養生も碌々なす能はざりしかば鐵道工夫吉川善治と云ふが世話し居たるもなか〳〵に全快する模樣なかりしかば去る七日仁川警察署に屆け出でしにぞ同署にては一昨日行路病者として收容せり

●二十錢の治療料 旭町二丁目代書業金子專一（三五）は九日午後四時二十分頃物品運搬の爲めチゲを呼びしに二人の擔軍來り運搬を爭はんとせしかば一人を後より突きしに地上に轉倒し左眼上部に擦過傷を負ひ口論なし居るを巡査に認められ南部署に同行し金子より二十錢の治療費を出して事濟み

●ヨボから說諭願 仁川寺町一丁目蒲鉾屋佐々木某は沓洞居住の韓人康世啓（三五）と云ふを一ヶ月五圓の約束にて去月初め雇ひ入れ使用し置きながら一錢も與へざりしかば康は一昨日仁川署に說諭方訴へ出でたれば同署にては佐々木を召喚取調の上說諭を加へたりと

美當一座に出席の筑前琵琶名手 三好數馬

●スンデの爭に 旭町二丁目百七拾九番戶靴商坂上辰平は去る九日午後七時四十分洋燈に火を點せんとせし際油壺に火を失し忽ち破壞して墜落し四方に蔓延して將に大事に至らんとせしを巡回中の伏見巡査が驅け付け漸く消し止めたりと

●勝利拍子の分娩 仁川敷島朝日樓支店の勝利事高島ますと云ふは娼買柄にも似合はず本年二月姙娠となりたるより京城本町二丁目南野藤吉方にて身二つとなり此程歸樓し近々の中又知らぬ顏して娼賣に出る筈

●新町の不景氣 昨今の新町遊廓は非常に不景氣にして一昨夜の如き廓內十軒の貸座敷に登樓せし客の總數八十五名にして費消額僅かに三百八十五圓二十八錢なりしと

●辻屋商店の洋品類 京城本町辻屋本支店にては今回英米佛の各國より洋酒、食料品、洋煙草、洋菓子其他雜貨類多數直輸入なしたれば中元進物用として非常に賣行多く尙ほ輕便なる商品切手をも發賣せる由

●四ヶ所の樂器賣出 樂器は高尙なる家庭の娛樂品として近頃非常に流行せるが當地本町四ヶ所商店にては進物用として切手を發賣する由詳細は廣告欄にあり

●公判だより 來る十二日法務院に於ける公判は左の如し
一刑事（午前十時）印章署名不正使用被告人宮崎和吉、誘拐被告人大村ひめ、竊盜被告人山本吉五郎、竊盜山下金三郎、竊盜岩崎健作

●警報 風強かるべし低氣壓は上海附近にありて七百五十ミリノートルを示し其の中心は北東に向つて進まんとす韓國南部及中部を警戒す（十日午前十時十六分仁川觀測所發同十時五十二分京城測候所着）

●紅筆だより 井門の藝妓連は此間の藝妓芝居が中止になつた爲め何れも落膽の体なるは御尤も千万の次第なるが取分け若手連は八ケ間敷く叱られて稽古した甲斐もなしとコボし居れるは同情に堪へない併し內氣なる蝶々だけは却つて重荷を卸ろした樣と喜び相變らず平氣で無頓着なのは政子である▲つい三ケ月程前花月から現はれた十郎と云ふは元松山の上野屋で小春と名乘り美人として一時持て囃されたるを當時久松と云ふ縣會議員に落籍され手活の花となり居たるが如何なる理由にや廻り〳〵て當地に來り再び左褄取る身とはなりしが容色の以前に比べて劣りしは苦勞を重ねし爲めにやと某紳士は語り居れり▲井門藝妓讀込のサノサ節を投書した人があるから左に
千太郎や政子に家對が仇吉も奴、雛子のある中じや玉蝶權助子喜多八の蝶々、とんぼと玉奴

◀平民文庫▶

▲母國陛下は降雨綿々として一箇月に亘れるより地方農民の上に御軫念あらせらるゝと畏きことにこそ、子國韓皇は降雨二日なるに安堵せられて常膳を復舊せらると此れは又御目出度きことにこそ（屑々子）▲暑中は魚や肉類は口に適はぬ冷やつこに冷した燒酎をチビリ〳〵とやる與に言ふべからざる味がある（上戶）▲危險ですれ廢しなさい少しは口當りがわるくとも矢張り煮たもので燗酒になさい（小僧）▲是れから追々安眠妨害黨が殖ゑるのだ困つたことだ（公園守）▲大漢門前小路に韓字新聞社が出來ました御注進（ヨボ）▲京城に於ける婆ア藝妓を列擧すれば松葉亭の八重松同く八々花月のれ辰翡翠の梅吉淸華亭のれ高有月樓の勇次等である倘れ辰の三十九れ高の三十七は最も振へるもの也（戶籍係）▲玉子は苞に入つたのが宜しいドウも一個一個撰り取りのは石油臭い（彌次郎兵衞）▲暑い時に子供の多いのは、母親が可憐相だ寒い時は子供が可憐い（子持男）▲パナマ帽の安物が出來てから猫も杓子もパナマ帽（花の下）▲何時も自分の子に人は働かねば駄目だ働けば財產も自然殖ゑるものだと敎へて居たが二三日前のこされ父つあんは嘘を云ひ升ねと云ふから何故だと聞いたられ向ふの奧樣は毎日遊んで居るけど衣類がだん〳〵殖ゑるもの……向ふの奧樣は或る人の妾なのだ（への字）▲井門の藝妓連曰くア、實の持ち腐れになつたワ不識い〳〵（朝鮮島）▲御社の傍に野菜物を作りてある地所がありますが素人角力でも初めたら宜しからう地代は其內に露店を許して夫れに負擔させれば何んでもない一つ發起して下さい（太平町人）▲相撲の勸進元は恐れる願ひ下げる（係）▲九日の夜明治町の衛生床の前で學生風のものが三四名で一人のヨボを撲つて居たが其の中の一人曰く『モウ殿せ〳〵』と怒鳴つたので成程彼の醫學校の山本の体面に關するから』と云ふ人だナと思つたホントに体面に關するよ若々しい（通行人）▲僕は死ぬ迄に一度でよいから女に慕はれて見たい一体全体何んな氣持の者だか一遍で好いから實地に就いて成程と得心したい（廿四男）▲他で見る程樂なものではありませんよ、寧ろ苦痛なもんだ其樣な考へは夢にも出すものでありませんよ（係）▲自身に覺へでもある樣にへへゝゝ、爾來此の種の投書は沒にすべきが當然でしよう（小僧）